



富山県八尾の町でもっとも古い建物といわれる「宮田旅館」。築300年くらいと推定される。床下の傷みがひどくて建物が傾き、一昨年、当主が島崎棟梁に建て替への相談をもちかけたところ、「新築ならいつでもできる。これだけ歴史のある、価値ある建物なのだから活かしては」と逆に提案され、見事に再生された。囲炉裏端に座って見上げると、幾重にも交差した梁が見事。井桁に組んだ梁は揺れを吸収し、地震にも強いという。「宮田旅館」富山県婦負郡八尾町西町2267 ☎076-455-2011

文=舟橋左斗子 Text/Satoko Funahashi 写真=油科康司 Photo/Yasuji Yushina (WPP)

富山県八尾の町を元気にさせた島崎英雄の仕事 古民家と生きる棟梁

「何で今ごろ、こんな古くさいもん建ててるんだ？」。人は不思議そうな面持ちで訊いた。日本中から、ここ富山県八尾の町並みからも、伝統的日本家屋が姿を消し、ぴかぴかの新建材で町が彩られていった。高度経済成長期。こつこつと伝統工法で木の家を造り続ける若い大工の棟梁、島崎英雄さんは異色の存在だった。今では全国的に有名な「おわら風の盆」も地方の小さな祭りすぎなかった。「伝統を守りたい」と思ったわけでもない。チャレンジ精神旺盛な若者だったから、かえって人より早く近代工法にも携わった。某大手住宅メーカーの講習会にも参加した。「くだらねえな」「そうだな」。一緒に参加した弟と交わしたひと言が、その後の人生をしばらくは辛いものにした。島崎さんが『古民家再生』の仕事に本格的に出合ったのは30歳を過ぎた頃。地元の名士、吉田桂介氏からの依頼だった。それまでも、家を建て替えるとき、床の下地ならしにはよく古材を再利用したが、もとの建物に近い形で再生した経験はなかった。ゴミの山とも見えた古材と格闘して桂樹舎「民族工芸館」ができあがり、ここから棟梁、島崎英雄の新しい人生が始まった。